

令和5年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○ よく考え すずんで学ぶ子 ○ 思いやりのある子 ○ 明るく 元気な子 「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>○「温かい心(敬愛・思いやり・感謝)」「確かな学力」「地域への貢献性」を育てる学校 ○よく聞き、見、話し合い、体験を生かして考える子。互いを尊重し、物や自然を大切に作る子。心身ともにたくましく、めあてをもってねばり強くやりとげる子。 ○児童・保護者・地域の人々、社会、自然とのかかわりの中で、様々な課題に気付く教職員。課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことのできる教職員。考えや発想を適時に実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員。</p>
---------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p><成果> 児童一人一人の学習状況を把握したことにより、手立てが明確になり、学力向上に向けて対応することができた。 <課題> 個別最適な学び協働的な学びの実現を目指した指導法について研究し、教員の授業力をさらに高めていく必要がある。</p>
--------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<確かな学力の向上> ・「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	「教員の指導力向上」「基礎学力の保証」「学習習慣の確立」の3つの観点を設定する。 ・「教員の指導力向上」では、毎回の授業で自分の考えや振り返りを書く時間を確保するなどの取組の実施 ・「基礎学力の保障」では、東京ベーシックドリルに取り組み、児童の苦手な分野等を把握、授業等での指導の実施 ・「学習習慣の確立」では、江戸川sutdy weekと校内の家庭学習キャンペーンの関連、家庭と連携した家庭学習の習慣化	・児童・生徒の学力向上を図るための調査「授業の内容はどのくらい分かりますか」の質問項目が各学年・各教科において肯定的な意見が85%以上 ・2月に実施するベーシックドリル診断テストCの8割達成者が80%とする。 ・全国学力・学習状況調査の「授業時間以外の勉強時間」の質問項目が1時間以上の児童の割合が80%以上の回答	A	A	○スグニタイムでタブレット端末を活用することで基礎基本の学習をすすめるなど、児童の基礎学力の向上を図る取組を充実させることができた。 ○研究のテーマを学力向上にすることで、教師の指導力向上をという意識を強くもつことができた。 ○年間6回の研究授業等を通して教師の指導力を高める取組を行うことができた。 ○「杉二学習キャンペーン」では児童が保護者とともに宿題に取り組むことで、保護者に対する学習への意識啓発ができた。 ●全国学力・学習状況調査等の数値に取組の成果を十分に反映させることができなかった。	A	○教師の指導力を向上することはとてもよいと思う。 ○児童の基礎学力の向上、教員の指導力向上への取組はすばらしいと思う。保護者が自分の子供の学力の認識が必要であると考える。 ○教員の指導力が研究授業などにより高まっている。また、保護者の学習に対する理解と意識が上がっている。 ○各先生方が工夫して学力向上に向けて努力している。	引き続き、児童の学力向上を図るために教員の指導力を高める研究や研修を意図的・計画的に行っていく。また、「杉二学習キャンペーン」等を実施し、児童及び保護者の家庭学習に対する意識啓発を図っていく。全国学力・学習状況調査等において取組の成果が出るよう指導を積み重ねていく。
	<読書科の更なる充実> ・学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実	・週2回の朝読書の実施 ・探究的な学習の計画立案 ・多読賞の設定(1～6年は60冊以上、3～6年の1万ページ) ・ビブリオバトルの全校実施	・多読賞は、1～6年は60冊以上、3～6年の1万ページの読書とする。 ・夏季休業期間を活用して第4～6学年の児童が調べる学習コンクールに向けて探究的な学習をすすめる、まとめる。	A	A	○児童に朝読書の習慣が確実に身に付いている。 ○読書週間や多読賞等の取り組みにより児童の読書への関心を高めることができた。 ○第二図書室ができたことで、これまで以上に図書を活用しての調べ学習への取組がしやすくなった。 ○図書の貸出のバーコード化ができ、これまで以上に図書の貸出が円滑になった。	A	○読書の習慣を身に付けることを大切だと思う。 ○本を増やすためには、本棚等の設備を充実させることが必要だと思う。 ○読書への意識が高まっている。貸出の効率化を高く評価する。 ○読書の習慣が付いている。 ○朝読書はよい取組だと思う。感想を発表する会があると意識が高まるのではないかな。	目標の冊数を達成できるように引き続き指導することに加え、読書科における探究的な学習活動を取り入れることで「調べる学習コンクール」等の活動を充実できるようにする。
	<外国語教育の推進> ・授業力の向上とALTの効果的な活用	・外国語研修の実施、年間を通したALTの計画的な活用	・年間の外国語授業、中学年35回、高学年70回	A	B	○教科担任制での外国語授業の実施によりこれまで以上にALTと連携し充実した内容の授業を行うことができた。 ○ALTの来校日を週予定で周知することにより来校日や授業時間を明確にすることができた。	B	○授業の内容が充実している。 ○外国語(特に英語)は、これからもっと必要になると思うので、力を入れてほしい。	ALTの効果的な活用や外国語の指導方法について研修を実施するとともに、タブレット端末やデジタル教材等を効果的に活用して授業改善を図る。
体力の向上	<体力の向上> ・体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	朝マラソン週4回実施、運動遊び年間計画の実施	・休み時間の外遊び、90%の児童が参加 ・長なわ跳び(8の字跳び)への全校児童の参加	B	A	○体力テストの結果の向上に向けて、コーディネーション運動に取り組むことができた。 ○器械運動の指導前に安全に指導できるように実技研修を実施することができた。 ○休み時間に教師を中心として児童がすすんで運動遊びをする等、児童の体力を高める取組を充実させることができた。 ●暑さのため、朝マラソンの中止期間が長くなってしまった。	A	○体力の向上のために朝マラソンはよい取組だと思う。 ○朝マラソンを行っているので、保護者に周知し、安全を確保したうえで、土手でマラソン大会を実施してもよいのではないかなと思う。 ○教員が休み時間に遊ぶ取組により児童の運動時間が増えている。 ○育ち盛りの児童にとって体力づくりは最も必要だと考える。無理のない程度に力を入れて指導してほしい。	引き続き、朝マラソンを継続し、児童の体力向上を図っていく。また、教員の実技研修会を実施することで、体育科授業の指導を充実させ、内容によっては、休み時間等の遊びの中でも取り組むことができるようにする。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<共生社会の実現に向けた教育の推進> ・エンカレッジルームを活用している児童への個に応じた指導の充実 ・副籍交流及び共同学習の充実	・特別支援教室個別支援評価シートを活用した情報共有及び指導・支援の充実 ・鹿本学園との副籍籍交流	・学習と行動のチェックリストの実態把握項目である「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論」「姿勢・粗大運動」「微細運動」「注意」「行動」「感情のコントロール」「社会性」を卒室時に各項目達成度B80～50%以上を目指す。 ・交流の仕方は適宜検討しながら年間1回以上の交流実施	A	A	○副籍交流の内容の充実と機会が増え、児童・教員ともに意識できるようになっている。 ○学習と行動のチェックリストの実態把握項目である「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論」「姿勢・粗大運動」「微細運動」「注意」「行動」「感情のコントロール」「社会性」の観点で卒室時に各項目達成度60を実現している。	A	○副籍交流の機会が増えた。内容も充実している。成果が達成度に表れている。 ○様々な人がいるということそれを認め合って生きていくということを学んでほしい。	児童の特性について教職員全体で情報共有を行うほか、行動が改善された児童の指導方法を交流することで、校内の指導体制を充実させる。今後も引き続き、家庭と連携・協力し、家庭と学校が共通理解のもと指導できるようにする。副籍交流は交流の機会を増やすことや内容の充実を図っていく。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hupaer-QUの活用	・特別支援全体会の学期ごと年間3回の実施 ・連絡会毎週(木)による情報共有 ・hupaer-QUを活用した学級の実態把握	・教室外での個別対応児童の復帰を目指す。(別室対応児童前年度比50%) ・連絡会での各学年年間5回以上の報告	A	A	○生活指導主任を中心に週1回に児童の報告会をすることで、教員間で児童の情報共有し、支援の必要な児童に対して組織的に対応することができた。 ○2学期から不登校傾向児童の別室対応の運営を行い、教室復帰を目指すように進めている。 ○エンカレッジルームを作ることで、心に不安を抱えている児童に適切な対応することができている。	A	○不登校ゼロを目標にしていきたい。 ○定期的に児童とコミュニケーションを図り、組織全体で情報共有する体制ができている。	特別支援全体会を通して、児童の実態を把握するとともに指導方針を一致させることで、学校全体で統一した指導ができるようにする。

令和5年度 江戸川区立大杉第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○ よく考え すずんで学ぶ子 ○ 思いやりのある子 ○ 明るく 元気な子 「学校大好き、先生大好き、友達大好き」 豊かな心、確かな学力、一人一人が輝く杉二の子</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>○「温かい心(敬愛・思いやり・感謝)」「確かな学力」「地域への貢献性」を育てる学校 ○よく聞き、見、話し合い、体験を生かして考える子。互いを尊重し、物や自然を大切に作る子。心身ともにたくましく、めあてをもってねばり強くやりとげる子。 ○児童・保護者・地域の人々、社会、自然とのかかわりの中で、様々な課題に気付く教職員。課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことのできる教職員。考えや発想を適時に実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員。</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p><成果>児童一人一人の学習状況を把握したことにより、手立てが明確になり、学力向上に向けて対応することができた。 <課題>個別最適な学び協働的な学びの実現を目指した指導法について研究し、教員の授業力をさらに高めていく必要がある。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・年間3回の学校評議委員会における情報共有及び教育活動の改善・充実	最終評価でAを80%以上とする。	B	B	○1学期の学校評議委員会において、情報共有及び教育活動の改善・充実を行うことができた。	A	○評議員一人一人活発な意見が出ていました。 ○丁寧な説明とともに情報共有ができています。	学校関係者評価をもとに取組を充実させるとともに学校評議委員会における地域の幅広い情報共有をすることで児童に還元できるようにする。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・見守り隊の実施 ・ふれあいWDの実施	・見守り隊の年間27回の実施 ・ふれあいWDの年間10回の実施	B	A	○見守り隊と1年生が継続して交流することができている。 ○ふれあいWDへの参加児童はコロナ下になる前よりも多い。児童の地域の人と関わろうとする意識は高まっている。 ○HPの内容を充実させるとともに更新の頻度を高め、積極的に地域へ情報を公開することができた。	A	○歴史ある見守り隊をこれからも続けていってもらいたいと思う。 ○見守り隊やふれあいWDで地域とのコミュニケーションがとれている。 ○ふれあいWDは、他校にはない取組でとてもよいと思う。 ○先生や児童の協力もあり、盆踊り、運動会等、地域の行事に参加できていてよかった。	地域の教育力を活かし可能な限り、人と触れ合う体験的な取組を充実させていく。
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革プラン> ・教材研究及び会議の精選 ・区及び町会主催の行事への参加	・第3学年から第6学年まで一部教科担任制の実施 ・会議の精選及びc4thの適切な活用 ・印刷物等の作成時間の軽減 ・中央地域まつり、五北町会盆踊り等、行事への参加	・第3学年以上の一部教科担任制の実施状況 ・中央地域まつり、五北町会盆踊り等、行事への参加状況	A	A	○教科担任制の実施することで、教員の教材研究の時間が減少し働き方改革が進んでいる。 ○SSS等の支援により、教員の労働時間や負担を減少させることができた。	A	○五北町会盆踊りでの子供たちのソーラン節はとてもよかった。 ○五北町会の行事への参加、ありがとうございました。令和6年度は、防災意識を高めていきたい。10月に防災訓練があるので、参加をお願いしたいと考えている。 ○教科担任制による効果が出ている。	町会行事に積極的に参加し、郷土愛を育む教育を推進していく。学校における避難訓練を含め、地域における防災意識を高められるように意識啓発を行っていく。
	<SDGs教育の推進> ・各教科においてSDGsに関わる取組の紹介	・SDGs教育の推進 ・SDGsの取り組みと教科とを関連付ける指導	・SDGsに関連する賞の受賞(令和4年度 SDGs環境未来賞受賞)		A	A	○江戸川区環境未来館と連携してヤゴトづくりを今年度も実施することができた。 ○4、5、6年生が環境ポスターを作成し、SDGsへの意識を高めることができた。	A	○関連する取組が増え、意識が高まっている。 ○学習発表会の6年生SDGsの発表はとてもよかった。